

科目名（担当教員）	ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ（佐藤 健司）
-----------	-------------------

テーマ	企業のマネジメントケース・スタディと実践―
履修条件	常に出席可能な人（やむをえない事情は除く）・約束を守れる人（時間、報告等） ・礼儀正しい人
テキスト・参考文献	ゼミで随時指示する

◇ゼミ研究内容

企業経営にとって、マネジメントは「企業経営の心臓部分」といえるほど大変重要なものである。マネジメントは、企業が存続するために、企業がおかれている環境にどのように適応し、企業がもっている経営資源をどのように活用するのかということを考えるものである。

そこで、このゼミでは「企業経営のしくみ」を様々な角度からとらえ、学生が常に進化している企業のマネジメントを自主的に学ぶことによって、学んだことを実践できる能力を養成する。すなわち、社会に通用するビジネスセンスを養成する。

具体的には、工場見学、企業調査そしてマネジメントの最新のトピックスに触れることによって、ゼミ生がマネジメントを立体的に理解し、さまざまな機会を通じて実際に行動できるようにする。頭と体をフルに使って、マネジメントを学ぶのが本ゼミの最大の特徴である。尚、実践例としてこれまで数多くのフィールド・ワークを実施してきた（これまでの訪問先：大山乳業協同組合[鳥取]、大塚製菓徳島支社[徳島]、トヨタ自動車[愛知]、サントリー[京都]・京都工場、京都新聞社[京都]、日本食研[愛媛]、オリム[愛媛]、キリンビール[滋賀]・多賀工場・兵庫；三田工場、コカ・コーラ[愛知]・東海工場・京都；京都工場、江崎グリコ[兵庫]、キューピー[兵庫]伊丹工場、アサヒビール[大阪]・吹田工場・名古屋；名古屋工場、トヨタ・テクノミュージアム[愛知]、キッコーマン[兵庫]高砂工場）。

◇ゼミ運営方法（ゼミ修了時に求める学生の理解・達成度）

運営は、大きな方向を担当教員が示したうえで、ゼミ生が自主的に設定したテーマを研究するというスタイルをとる。具体的には、卒業論文を作成するにあたって必要と思われる基礎力を養成するために、担当教員が適切なテキストを選び、ゼミ生がそのテキストに基づいた発表及び議論を行う。このような基礎固めをしっかりと行っただけで、今度はゼミ生が自主的に選んだテーマ（マネジメントに関わる分野）に基づいて、発表・議論・修正を行いながら卒業論文の完成を目指す。また、進路指導にも重点を置き、それぞれの希望進路を考えたうえで個別指導を行う。

◇ゼミ運営計画

	運営内容・ゼミナール特別活動	参考文献・課題など
ゼミナールⅠ (1回生後期)	[運営内容；基礎力養成期]指定したテキストに基づいて、グループ別にレジュメを作成し、発表及び議論を行う。 [ゼミナール特別活動]①個人面談（リアルタイムフィードバック） ②進路別（就職・編入）個人指導 ③フィールド・ワーク ④ゼミナール春期勉強会 ⑤アクティブ・ラーニング	ゼミで随時指示
ゼミナールⅡ (2回生前期)	[運営内容；応用力養成期]卒業論文のテーマをグループ別に設定し、それに基づいた発表及び議論を行う。 [ゼミナール特別活動]①個人面談（リアルタイムフィードバック） ②進路別（就職・編入）個人指導 ③フィールド・ワーク ④アクティブ・ラーニング	ゼミで随時指示
ゼミナールⅢ (2回生後期)	[運営内容；実践力養成期]グループ別に発表及び議論を重ね、卒業論文を完成させる。 [ゼミナール特別活動]①個人面談（リアルタイムフィードバック） ②進路別（就職・編入）個人指導 ③卒業論文個別対応 ④アクティブ・ラーニング	ゼミで随時指示

◇その他コメント（自己紹介とゼミ生への要望など）

企業は利益を追求しなければ、経営活動を行っていくことはできません。しかし、経営活動においても人（あるいは法人）を支え、人に支えられる関係を無視することはできないと思います。今後、このことを念頭におき、企業の経営活動を「クールヘッドとウォームハート」で分析したいと思っております。

<ゼミ生への要望>

経営学者のドラッカーは、「自由は責任ある選択である」といっています。本ゼミでは、ゼミ生個人個人の「自由」を尊重しますが、「わがまま」は認めません。そこで本ゼミでは、「自由」の意味を理解し、「やるときはやる」ことができる人を望みますので、この考えに賛同できる人を歓迎します。また、個々のゼミ生の魅力と長所を最大限に引き出すように努めます。